

題字：石野 華鳳
(書家 小松市出身)

The image shows a horizontal calligraphy work. On the left, there is a smaller inscription in cursive script: '題字：石野 華鳳
(書家 小松市出身)' (Title calligrapher: Kaneyuki Hasegawa, from the city of Koishizuya). To the right of this is a larger, more prominent piece of calligraphy in bold, expressive brushwork. The characters read '小松屋' (Koishizuya), which is the name of a traditional Japanese confectionery shop.

第9号

2020年(仲秋号)



會長元山洋

昭和二十六年に始まつた「社会を明るくする運動」は、今年、記念すべき第七十回目を迎えた。昨年映画「君の笑顔に会いたくて」上映運動でつけた連携の力を生かし、今年度は特に「小松能美地区記念大会」をはじめ多くの事業・活動を計画しましたが、新型コロナウイルス感染防止のため、やむなくほとんどが中止となり、とても残念です。

今後も制約された中での活動になりますが、金沢保護観察所、更生保護関係団体、各自治体等と連携した取り組みで、再犯防止を重点に、「犯罪や非行を防止し、立ち直りをささえるチカラ」をさらに強めていきたいと思っています。そのためにも、皆さま方から知恵を出していただき、保護司会におけるつながりを一層強め、保護司会の総意を結集して取り組んでいきます。よろしくお願ひいたします。

今年度新たに四名の方が保護司会の仲間に加わりました。感謝申し上げますと共に大いに歓迎します。ぜひ新しい風を吹かせていただきたいと思っています。共に頑張りましょう。

知恵を出し合い、

本年度の定期総会

今年度の主な事業

本年度の定期総会は、コロナ禍のため書面評決としました。五月十五日までの結果は、会員数五十三人中、四十六通の返信があり、全員賛成で全議案が承認されました。

(中止)

●『第七十回社会を明るくする運動
（中止）

●JR四駅街頭キャンペーん（中止）

●『キッズフェスタ』に協賛（中止）

社明警銳云報車二搭乘（中上）

七月 各市町内

八九
音韻學

社会參加活動

十月 安宅海岸の清掃

ケーラス研究会
(中止)

●新年自主研修 一月

● 桃園縣(議)の発行 全三回

定期総会・定例理事会・部会・支部会

1

監事の欠員補充として、福島日出夫氏が承認されました。





今後の更生保護

金沢保護観察所 所長 池尾 洋美

本年四月一日付け人事異動により、合田所長の後任として高知から転任して参りました。今年は新型コロナウイルスの影響を受けておりますが、再び皆様と更生保護に従事できますことを大変光栄に感じております。

さて、更生保護が直面する課題は、①緊急行動宣言を踏まえた保護司適任者確保の推進、②満期釈放者など誰一人取り残さない更生保護の実現、③地域社会の安全・安心に貢献する更生保護の推進、④犯罪被害者等の思いに応える被害者等施策の推進、⑤医療観察制度の対象者の円滑な社会復帰の促進であり、本年度（令和二年度）において取り組むべき業務重点事項となっております。

また、コロナ禍の中、かつ自然灾害等予測が困難な事象により社会基盤に大きな不安や動搖が生じている状況での再犯防止対策は、国民・県民・市民が安全に安心して暮らせる社会を実現するための重要な取り組みであります。保護観察所の役割は、保護観察対象者が被害者を死亡させるなど社会の耳目を衝撃させるような再犯事件を防止すること、平成二十九年十二月に策定された再犯防止推進計画において取り組むべきこととされております。

いる課題や近年の社会情勢等を踏まえた再犯防止に力を尽くすことであり、保護観察官をはじめ更生保護官署職員は、再犯リスクを軸とした再犯防止のためのアセスメントを行い、限りあるマンパワーをより再犯リスクの高い対象者に集中させていくこと。さらに本年度、類型別処遇の見直し、ストーカーや特殊詐欺などの新しい類型を取り入れることによる処遇の強化、併せて、すでに実施しております保護司による複数担当の積極的、かつ充実した処遇態勢に努めて参ります。



五年振りに

金沢保護観察所 保護観察官 窪田 由紀子

保護司の皆様には日頃大変お世話になります。感謝申し上げます。五年振りの担当で、懐かしく、そして大変うれしく思っております。

さて、前回主任官だった時の定期駐在時に、保護司さんとその担当の保護観察中の成人男性が、三年日記帳を準備し、元旦からそれぞれ日記をつけることをお二人で楽しそうに話しておられました。

私は、当時日記をつけていなかった

ので、同じように始めてみようと思い、三年日記帳を買い、同じく元旦からつけ、現在は一冊目、つけ始めてから六年目を迎えました。今のところ一日も途切れることなく続いております。

今後も、自分で決めたことは小さな事でも続けるよう努め、また、保護司さんを始め出会った方々に学ばせていただきながら、日々成長していくたらと思います。今後とも御指導御鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

書の道



書家馬久賀都

わっていることになります。

私は甲骨文を含む篆書、隸書、篆刻が好みです。最近は白川静氏の影響で甲骨文字の一筆書きに夢中になっております。

さて、昨今の書道界の事を少しお話ししたいと思います。戦後日展が発足し書が第五課として参加いたしました。一般に書が芸術と認められた瞬間でありました。然しながら、最近の公募展には目に余るものがあります。ここに一つ「亞流」（二番手）といふ言葉があります。芸術では亞流は恥ずべきことなのです。昨今の展覧会には余り過ぎます。亞流（ものまね）がハビコリすぎているように思います。その人独自の苦心作を拝見したいものです。また自分の作の前に立ち、一度でいい、にんまり笑いたい。

* 第70回 社会を明るくする運動月間 *

法務省主唱の「社会を明るくする運動」は、本年、第七十回の記念すべき年となりました。この運動は、犯罪や非行の防止、罪を犯した者の立ち直りを地域のチカラで支える運動であり、毎年七月は、さまざまな活動を強化する月間です。

スタートの七月一日には、総理大臣のメッセージの伝達です。小松支部では、午前九時に小松市役所を訪問し、佐野支部長ほか役員一名で和田市長にメッセージの伝達を行いました。次いで小松市議会を訪ね、新田副議長にもメッセージの伝達を行いました。能美支部では、元山支部長ほか役員一名と能美地区更生保護女性会代表で能美市役所を訪問し、井出市長に、川北町では、前町長にそれぞれメッセージを伝達しました。

小松市は、「リ・スタート」サポート協議会をいち早く立ち上げ、再犯防止に取り組んでいます。能美支部では、井出市長、前町長と懇談ができ、コロナ禍での更生保護活動についての御理解をいただきました。

今年はコロナウイルス感染予防の中、管内街宣活動、JR四駅街頭キャンペーンなどが中止となりました。また、本来であれば第七十回の社会を明るくする運動小松能美大会を開催する計画も中止を決め、合同のメッセージ伝達が実現しませんでした。

唯一、各庁舎に懸垂幕を下げ、公共施設等へのポスターの掲示をしました。また、ケーブルテレビを利用してのテレビ小松での社明CM動画を放映することができましたが、保護司が主体となる活動ができない状況での少し寂しい社明月間となりました。



メッセージ伝達式（川北町）



メッセージ伝達式（能美市）



メッセージ伝達式（小松市）

総務部会 元山 洋

見通し持った保護区全体の事業、各

部会等との連絡調整を二層推進する中

で、今年度は特に、保護区が抱えている

課題（保護司の安定的確保、定例研修

等の参加率向上）に取り組んでいきます。

そのために、保護司会におけるつながり（顔合わせ、働きかけ、声かけ）の強化、

会員への情報提供、連絡をきめ細やかに

意識的・継続的に図っていきます。

各部会報告

会の活動も中止か保留になっています。

社会を明るくする運動に関しては、

七十回の記念大会を予定していました

が、総理大臣メッセージ伝達式、社明ボ

スター掲示、チラシ配布、小中学校への作文コンテストの依頼に止めています。

協力組織部会 俵 秀雄

今年度の活動については新型コロナウイルス感染防止の為中止の予定でした

が、対象者の社会参加活動について、観

察所から要請があり実施することにな

りました。

三密を避けての活動とのことで検討

した結果、海岸清掃を実施することに

しました。十月に安宅海岸で行う予定

です。今年も多くの方のご協力をお願

いします。

研修部会 森本 栄史



今年度の視察研修は、十一月に金沢少年鑑別所（金沢市小立野五丁目）を

訪問する予定でしたが、コロナ感染予防のため中止となりました。

広報部会 新川 賢



新年自主研修会の開催も検討中ですが、講演者は現在のところ、小松市社会福祉協議会の方を予定しています。

訪問する予定でしたが、コロナ感染予防のため中止となりました。

犯罪予防活動部会 德山 知子



新型コロナウイルス感染防止の為、年

度当初から保護司会活動がほとんど中止となり、それに伴い犯罪予防活動部

等の活動も中止か保留になっています。

社会を明るくする運動に関しては、

七十回の記念大会を予定していました

が、総理大臣メッセージ伝達式、社明ボ

スター掲示、チラシ配布、小中学校への作文コンテストの依頼に止めています。

社会を明るくする運動に関しては、

七十回の記念大会を予定ていました

が、総理大臣メッセージ伝達式、社明ボ

スター掲示、チラシ配布、小中学校への作文コンテストの依頼に止めています。

社会を明るくする運動に関しては、

七十回の記念大会を予定していました

が、総理

新任にあたり



小松支部東分区 江畑いづみ

保護司という活動は、地域のコミュニティセンターに置いてあつたチラシで知りました。私はこれまでもいくつかのボランティア活動に携わってきましたが、昨年度より高校生を主体としたボランティア団体にも協力させていただいております。その目的の一につき、「一人一人の子供に『自分は社会の中で、誰かにとって必要な人間である』と『自己肯定感を持つもらう事』があります。私が保護司になることで、これから犯罪防止活動や、社明運動を通して子供達に大切な事を伝えていく幅が広がるのではないかと考えました。保護司の仕事は多岐に渡りますが、まずはこれから頑張って行きたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



能美支部 荒木 達人

数年前から「保護司になつて一緒に活動しないか」との先輩保護司の方から言葉をいただいており、地域貢献をしていきたいという思いから、保護司をさせていただくことになりました。まだまだ未熟であり、定年まで数年を残しております。仕事との両立が課題ですが、できる限りのことをしていきたいと考えております。

現在小松市内の中学校で勤務しておりますが、現在の生徒は、素直いろいろなことに前向きであると感じております。この素敵な子どもたちが、さらに強くたくましく二十一世紀を生きていくには、家庭・地域・学校が一体となり、取り組んでいく必要性があると思ってます。そのためにも、微力であります。保護司として、誠心誠意取り組んでいきたいと考えます。よろしくお願ひします。



能美支部 石川 和之

令和二年五月に保護司を委嘱されました能美支部の石川と申します。新任保護司研修が十月頃開催される予定ということで、現在何もわかつていない状況です。私は人に頼まれると嫌と言えない性格から、これまで地域や子供の関係で色々とお世話をさせて頂きました。今年十七年目の能美市防犯委員会においては根上地区の会長を務めています。ただ保護司の活動は、これまで自分が経験して来た地域の活動と比べて、色々と違ったと思うので、ご推薦された方々の期待に応えるべく、諸先輩方々のご指導を仰ぎながら頑張つて行きたいと思います。どうかよろしくお願ひ致します。



能美支部 田中 洋栄

昨年「君の笑顔に会いたくて」の上映会に参加してほしいと従兄から誘われました。映画はとても感動的で、このとき、保護司という活動があることを初めて知りました。そして、あんなふうに人と関わるのは素敵だなと思いました。

数カ月後、従兄から保護司の人数が足りないこと、そしてやつてみないか?と誘いを受け、正直話を聞きながら断る言い訳を探していました。こんな自分に出来る訳がない。こんな自分よりもっと適任の方はたくさんいるだろう。そんなことを。しかし、ふと、あの映画の事も思い出します。この素敵なものたちは、さらに強くたくましく、これもご縁、こんな自分でも保護司の方々やいろんな人と関わり、もしかして変わるのでないか、こんな自分でも出来ることはあるんじゃないか、と思い、また、息子の「お母さんやつてみたら」のひと言にも後押しされ、引き受けることにしました。

コロナウイルスの感染拡大で研修が延期になり、研修のための書籍が届けられ不安になつておりますが、自分に出来ることから、少しずつ、多くの諸先輩方のご指導をいただきながら、保護司として、人として成長し社会に貢献できるよう頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

退任にあたり



小松支部北分区 南部 仁志

就任する際、私の仕事等の関係上何も出来ませんよと何度もお断りしたのですが、知人の願いで二〇一〇年より席をおきました。実際に十年間、席をおくだけの状態で心苦しく思つておりました。申し訳ございませんでした。一時体調を崩したこともあり、退任することを致しました。ありがとうございました。南部氏のほか、次のお二方が退任されました。ご苦労様でした。

小松支部東分区 宮本 紀美

小松支部南分区 林 いづみ
(敬称略)

保護司活動のパートナー



「ピンチはチャンスですね」コロナ禍にあるボランティア団体の取組みに天皇陛下がかけられたお言葉だそうです。するべき事が山積、先の見えない中、時は過ぎて焦りばかりが先に立ちますが、皆様にお知恵を頂き、共にチヤンスに変えたいと思いま

令和二年度はコロナ禍ですべての活動が中止に追い込まれ、六月までは理事会すらできないう状況が続きました。県連のミニ集会担当区で十五回の開催が求められていますが、三密が問われるなか皆さんに声を掛ける事さえ憚られ、とても難しい状況にあります。

ただそうした中において八月七日に、獄死した。私自身当日は都合で遅れてしましましたが、皆さん何事もなかったように作業を用意したお花を挿し、お供えをし、生あるときにはせ、坊守西浦様の読経に手を合わせる頃には雨も上がり、心静かな時間を共有する事が出来ました。

令和二年度はコロナ禍ですべての活動が中止に追い込まれ、六月までは理事会すらできないう状況が続きました。県連のミニ集会担当区で十五回の開催が求められていますが、三密が問われるなか皆さんに声を掛ける事さえ憚られ、とても難しい状況にあります。

ただそうした中において八月七日に、獄死した。私自身当日は都合で遅れてしましましたが、皆さん何事もなかったように作業を用意したお花を挿し、お供えをし、生あるときにはせ、坊守西浦様の読経に手を合わせる頃には雨も上がり、心静かな時間を共有する事が出来ました。

小松地区更生保護女性会

会長 中谷 純子
「ピンチをチャンスに」

会長 中谷 純子

能美地区更生保護女性会

会長 仁地 美代
「正しい生き方」

会長 仁地 美代

小松能美地区BBS会

「更生保護活動が根付くよう」

代表 北野 友希

小松能美地区BBS会の活動は、今年度、新型コロナ状況下、すべての活動が中止となっていました。いつまでも不安の絶えない状況が続き、早期収束を願うばかりですが、この状況の中、少し更生保護に思いを馳せています。

最初に罹患した方がその地域に住めなくなつて引越した、というような話を耳にしました。社明

固めていく必要があると思います。

そのような中、六月に入り前会長より、徳風苑夕食づくりの打診があり、どのような形で寮生経験して参りました。天然痘、コレラなど……。それでも人間は対処し現代にいたってきたと思います。このような時代だからこそ、自分の生き方、家族の生き方、地域社会の生き方をしっかりと考

えました。歴史上、人類は何度も世界的大流行を経験して参りました。天然痘、コレラなど……。今年度は、大勢の会員対象の研修会などは中止せざるを得ない状況ですが、其々の地域で、子ども達の見守りパトロールやミニ集会などが予定どおり実施できることを祈るばかりです。

今後、新型コロナウイルス感染のまん延はひとつの大きな方針転換をする「天の声」という方もいらっしゃいます。正しい生き方とは何かということを一人ひとりが揺るぎない形で自分のものにできたらと考えます。

波瀾の幕開けの中、能美地区女性会の会長を引き受けたことも、何かの縁と思い、出来ることを精一杯担つていきたいと思っています。

運動も今年は出来ませんでしたが、立ち直りを支える地域の力が必要な更生保護の想いと感染者を誹謗中傷しない気持ちは同じもののように思えてなりません。罹患した方々に不注意はあったかもしれません、不注意を責めることばかりをせず、自分たちの教訓として見ることは出来なかつたのかと残念な気持ちになります。更生保護の気持ちがみんなに根付いていたら違っていたかもしれません。

活動は出来ずにいますが、今だからこそ、更生保護・社明運動にBBS会員として想いを馳せ、この運動が根付くよう活動して行きたいという気持ちになっています。

教育現場からの声

○○○
小松支部だより
○○○

○○○
能美支部だより
○○○

「リ・スタート」サポート協議会が八月二十四日市
序舎で開催される予定でしたが、市の新型コロナ感染
症予防の緊急行動期間のため、中止になりました。
この会は、①誰もが安心安全に暮らすことができる
「やさしいまちづくり」の推進、②住まいと仕事の確
保のための取り組み、③保健医療・福祉サービスの利
用の促進、に取り組みます。具体的には、行政間の
連携、情報の共有を図り、地域で支える仕組みづくり
の検討、犯罪をした者等の住まいと仕事の確保に重点
をおき、民間と行政が連携して、具体的な支援等の
検討を行います。昨年度発足し、座長には支部長の
佐野良衛氏が就きました。

今年に入り新型コロナウイルス感染症が広まり、多くの行
事や会合が中止されるなかではありました。能美支部の令
和二年度総会を会場の感染予防対策に従い実施することと
し、出席人数も十名程度であることから、四月九日に無事
開催することができました。
また、能美支部では、保護司の充足率が低下していた中、
五月二十日付けで新たに三名の新任の保護司さんを迎えるこ
とができました。しかし、コロナ禍で新任保護司さんを迎
ての会合ができない状況が続いています。
また、第七十回社会を明るくする運動も、総理大臣メッ
セージの伝達を代表者のみで行い、恒例の更生保護関係者の
座談会は中止となり、互いに協力し合って犯罪予防を推進し
ていかなければならぬ活動ができませんでした。



能美市立根上中学校
校長
木下 浩明

「がんばろう根上中」で 「いいねえー根上中」に！

な行事が中止や延期、または規模
縮小されながらの一学期。そして、
十六日間の短い夏休みを経て、八
月末より二学期がスタート。

現在、感染予防対策を講じた
上で、学校教育活動に取り組んで
います。テーマは、生徒も教職員
も「今できることは何か?」を考
えて、油断大敵“がんばろう根上
中”です。その成果として、授業
中の集中力が高まっていること、生
徒会を中心とする自治的諸活動
がきちんと行われていること、部
校が再開されて一か月。いろん

活動に一生懸命取り組んで成果を
あげていること…“いいねえー根上
中”が増えていました。がんばれば
“いいねえー”が増える体験は、
一人ひとりの生徒の自信を生み、
母校への誇りにもつながります。
二学期は、あいさつと清掃に取り
組み、さらに“いいねえー”を増
やしたいと考えています。

ウイズコロナ・ポストコロナの中、
生徒の笑顔があふれる“いいねえー
根上中”をめざして“がんばろう
う”は、まだまだ続きます。

〔新川 賢〕

編集後記

コロナ禍により保護区
の活動の多くが中止、
制約される中、皆様のご
協力により第九号を発
刊することができました。
感謝申し上げます。
七十回を迎えた社明
運動の記念行事が中止
となりました。残念です。
先の見通しの立たない
ものかしい日々。できる
ことを続けていきたいも
のです。

※お問い合わせ 事務局
TEL0761-46-5105 FAX0761-46-5108
E-mail hogoshikai@aqua.plala.or.jp
URL http://hogoshikai.org

発行日 令和2年9月20日
発行 小松能美保護区保護司会 広報部会
印 刷 マルト株式会社

小松能美保護区保護観察件数等／8月1日現在

単位(件)

種別	1号	2号	3号	4号	環境調整
家庭裁判所で保護観察処分を受けた者	少年院から仮退院を許された者	刑務所から仮出所を許された者	刑事裁判所で刑の執行を猶予され保護観察に付された者	保護観察前に要する身元引受人及び帰住環境の適否調査と調整作業	
令和元年	10	2	1	8	13
令和2年	5	1	1	10	14
増減	-5	-1	0	+2	+1

最近の保護観察件数等の動向

昨年に比較して少年事件が減少し、成人事件が増加している。
また、令和2年保護観察事件17件のうち、窃盗事件が10件を占めている。